

第IV部 調査テーマへの自由意見

調査テーマへの自由意見

質問の最後に、調査テーマに対しての意見、提案などを自由に記述してもらったところ、回答者1,353人のうち、12.0%に相当する163人から多岐にわたる意見が寄せられた。

(1) 気候変動への適応

- 気候変動の悪影響がこの3年～4年程でさらに加速していることを実感しております。地球規模で取り組まないと手遅れになる、もはや、手遅れでしょうか。恐怖であります。一人ひとりでは間に合いません。景気も良くないですが、企業・県・国・世界が取り組んでほしいです。(横浜・女性・50歳代)
- 津波は、海から遠い地域なのでピンとこないが、今年の台風の影響で、河川の氾濫等、身近にある危険を実感した。(横浜・女性・50歳代)
- 台風、地震やその他災害時のアナウンスが防災無線では、何を言っているか聞こえない。避難勧告などはメールで確認できて助かった。(湘南・女性・50歳代)
- 最近の台風被害、大雨による水害について、確かに自然災害であることに間違いはないのですが、私は人災の部分が大きいとっております。ダム湖や湖・河川等の底土の除去が日頃より行なわれていないための災害と考えます。ダム湖等の関係者の話によりますと、湖の有効活用期限は約20年と言われます。周囲に自生する樹木の枯葉の堆積や上流から流れ入る土砂等によって底が浅くなるそうで、その量は私たち一般人には想像ができないほどのことです。それに対し浚渫(しゅんせつ)作業は行なわれていない、ということです。なお、ダム湖管理者は大雨の時に湖水の水量が大幅に増加することを心配しておりました。今回の大雨による増水によって城山ダムは緊急放流を行いました。同じ様に各県各地の河川の決壊なども、底泥の堆積と考えることができます。浚渫(しゅんせつ)は多額の費用がかかるため、各自治体とも手を付けたがりませんが、残土の利用についても考えられると思います。(横浜・男性・75歳以上)

(2) 環境に配慮した生活

- 環境問題に関して興味のあるなしの差が大きいため、知識、興味を一人ひとりが持つためには、企業をあげて研修参加に取り組むことが、始まりの一步だと思います。(湘南・女性・30歳代)
- 環境問題は地球規模の課題であり、森林生態学を教える立場から興味あるものでした。有機栽培がすべて環境に良いものではないこと、環境に優しいという用語はあいまいなものであると思いました。(横浜・女性・60歳代)

(3) 生物多様性

- 神奈川県は他県と違い、外来種除去をあまり積極的に行っていないことは評価できます。外来種を除去する前に環境を改善する方が大切です。(横浜・男性・40歳代)
- 1～4のテーマに関しては、人間側の都合だけの視点であり、動植物の生態系を侵食しているのは人間側ではないかと思う。(湘南・男性・40歳代)

(4) 鳥獣被害

- 住んでいる街の公園でタイワンリスが繁殖し、その地域が、どんどん広がっているのがとても気になります。公園に来る人が餌をあげることもあり、外来種の害について知らない方も多いのではないかと思います。(横浜・女性・70~74歳)
- 現在の日本の動物保護法は、実態に即しておらず、行き過ぎた保護をしている、と思います。シカが増えすぎて、逆に自然を食い荒して破壊していることは、全国各地で報道されていますが、三浦半島や近隣の房総半島ではたぬき、猿、カラスが多すぎます。農作物(小さな家庭菜園)を食べられて、わなでたぬきを捕えても、町役場の職員が来て「法律により釈放します。」と言われ、ナンセンスだと思います。(横須賀三浦・女性・75歳以上)
- 日本にも猿、イノシシ、熊など、たくさんの種類の動物が生息しています。では、私たちはこれら動物と共に生きて行くことについての知識があるのでしょうか。日本人全体が共生について勉強する必要があるのではないかと思います。儲かるからといって売れる木材のみを植え続けるから、彼らは里に降りて来るのです。彼らは調理した料理の方が、生の栗や木の皮などの方よりうまいのを知っております。人が出払った無人の家に上りこんでおひつのふたを開けてご飯を食べます。わな・鉄砲で駆除するより山の頂き近くに彼らの好む実の成る木を植えることだと思います。そのために彼ら個々の、最も好きな食材を知る必要があります。また、その行動や生活範囲等も知るべきでしょう。(横浜・男性・75歳以上)

(5) かながわの広報

- 県のたよりの内容をもっと増やしても良いのでは。(横須賀三浦・男性・75歳以上)
- アンケートの内容は、知らないことが多かった。これらを県民に知らせる方法を考えてほしい。月1回の県の広報紙(細かな情報(お知らせ)が多過ぎてあまり見ない。)、tvk(ほとんど見ない。)、ホームページ(必要なときに、まれに見る程度)等は、私にとっては、あまり役に立ちません。県には、メルマガもあるようですが、それぞれのセクションごとのようです。できれば県全体の横断的な総合的なメルマガ(国の「首相官邸」のようなもの)を希望します。(湘南・男性・70~74歳)
- 情報化社会であるが、AIなどにより興味のある情報や広告ばかりで、県や市の情報が届きにくくなっていると感じる。(湘南・男性・40歳代)
- 基本的に若い世代は神奈川県のことをテレビでもネットでも見ません。必要な時に役所に行くだけです。今回の調査のように個別郵便で来れば、見る機会になるので良いと思います。ですので、できるだけそういう宣伝にお金をかけずに、補助、手当、給付などの目に見えて分かるところにお金を使ってください。電気自動車の購入補助なども先着であったりするので。(相模原・男性・40歳代)

(6) スポーツ

- 神奈川県としてベイスターズやマリノス、フロンターレを応援して盛り上げてほしい。(川崎・男性・30歳代)
- ラグビーワールドカップ、最高でした。相模原にヤクルトスワローズを呼んでほしい。相模原ヤクルトスワローズにしましょう。(相模原・男性・20歳代)

- スポーツをするのがとても好きなのですが、スポーツをする場所がなく、スポーツをするのを諦めてしまいます。また、スポーツをするところがあったとしても、知り合いとスポーツをするだけで終わってしまい、もう少し、知らない人や、誰とでも一緒に気軽にスポーツができる大会のようなものがあると、とても良いなと感じました。また、いろいろなスポーツをやりたいです。自分が中学や学生の時にやっていたスポーツ以外のスポーツができる人が身近にいれば、楽しそうだと思います。(県西・女性・20歳代)

(7) 地域コミュニティ

- 地域のボランティアをしています。担い手が年々減り、高齢化が進んでいます。次世代に少しでも良いものを残したいと思っています。(相模原・女性・60歳代)
- 地域コミュニティに関して、ママが孤立しないような支援の充実と、結びつけの取組をお願いします。孤独との戦いが、21世紀の重要なテーマになるものと考えます。幼稚園の情報発信が弱く、ママ友頼みなので、仲が悪くても、付き合い続けなければならないストレスによる精神的負荷が大きいように感じます。(横浜・男性・30歳代)
- 地域コミュニティに一番興味がある。大型マンションに住んでいるが、もっとつながりがほしい。子育てをしている時期は、子どもを通じた付き合いや、つながりがあるが、老後のつながりに不安がある。(横浜・女性・50歳代)

(8) 地域社会との関わり

- 今は年を取っても働いている人が多く、この先もっと多くなると思いますが、そうなりますます地域活動に参加することは難しくなります。PTAもそうですが、無駄なイベントの会合などはやめて、必要なことを効率よく短時間でできるようにすれば、参加しやすくなるのではないのでしょうか。(横浜・女性・50歳代)
- 自治会の活動が、何十年も前からやっていることを続けていて、今の暮らしや地域に住む年代と内容が合っていないから、続けることが難しいにもかかわらず、続けることがコミュニティ活動だという感じがあります。もっと今の暮らしや地域と合った自治会活動が必要だと思っています。(湘南・女性・40歳代)
- 地域社会との関わりで、地域活動というとハードルが高いですが、ご近所さんのちょっとした困りごとのお手伝いが、誰でも気軽に参加できる仕組みのようなものがあればと思います。(川崎・女性・60歳代)
- 比較的新しい地区で暮らしており、従来は、地元の方々が頑張って地域活動(祭り、老人会、公園清掃など)を牽引してくれていましたが、これからそれを外部からの転入者へ徐々に引継ぐ(一緒になって)ことが課題です。小さなイベントなどでも、自治体が少しでも支援する姿勢をみせることで、地域での盛り上がりは、衰えることなく継続し、良い方向へ行けると思います。(横浜・男性・70~74歳)
- 自治会の会館がありますが、自治会の活動のためだけでなく、フラッと立寄って、雑談できる、音楽などが聴ければ良いと思います。(横浜・男性・75歳以上)

(9) 「未病改善」の取組

- 病気とまではいかないが、何となく体調が悪いときに相談できる場所があれば良いと思います。病院に行くには大げさに感じてしまい、我慢してしまうので。(川崎・女性・30歳代)

(10) かかりつけ薬剤師・薬局

- 薬剤師に質問する前に、ネット等で調べていたりすると、それ以上の新しい回答はなかったりする。相談というより医師・医療機関との連携を強くしてほしい。(川崎・女性・50歳代)

(11) 肝炎・アルコール依存症対策

- 昭和56年頃に、肝がんの手術を受けた。その後、GOT、GOP等の数値は安定しているが、B型か、C型かは、承知していません。(横浜・男性・75歳以上)

(12) 妊娠・出産等に関するライフプランニング

- 問41に関して、小・中・高とそれぞれに伝える必要がある。伝える内容のレベルを変更する必要はあるが、教師や兄弟姉妹など、伝えるきっかけはあるはず。(川崎・女性・30歳代)
- 女性の社会進出が叫ばれますが、若いうちに、ライフプランニングとともに身体の変化をきちんと学ぶべきだと思います。(横須賀三浦・女性・50歳代)
- 不妊治療で2人の子どもを産みました。助成金はとても助かりましたが、やはり負担は大きかったです。治療代を将来の子どもの貯金にできたらいいのにと何度も思いました。妊娠する前も子どもを産んだ後も、そんな心配がないような生活がしたいです。(横浜・女性・30歳代)
- 子どもを2人、神奈川県で出産しました。神奈川県内に産院が少なく、その兼ね合いも、出産費用も高くして出産前後は家計を圧迫し、3人目が欲しくても、なかなか踏み切れません。子育てにさまざまな制度があり、利用しても家計は苦しいです。働きに出たくてもためらう人が多いこと、ライフプランを立てて出産したとしても苦労が目に見えていて、若いうちに出産に踏み切れず、30代になってやっとお金に余裕が出てきたころには、不妊治療で多額の費用が掛かります。もっと子育てしなくなる県にしてほしいです。(川崎・女性・30歳代)

(13) 地震対策の取組

- 防災情報について、避難場所の周知、どのような災害が起きた場合にどこに避難するべきなのか等、防災について知らずにいることが多くあります。パンフレットや冊子を作り、全家庭に配ってはどうでしょうか。いざという時に混乱しないような対策をとるべきだと思います。(相模原・女性・20歳代)
- 自動車のラジオでは、緊急ブザーが鳴りますが、テレビでも実施された方が良いと思います。(横須賀三浦・男性・75歳以上)
- 地震が起きたとき、全員が避難所へ入れないことや、食料や水も自分で数日分確保しておかないといけないということをもっと知らせるべきです。「誰かが助けてくれる。」という気持ちではいけないということを意識して広報してください(横浜・女性・60歳代)

- 関東大震災があった場合、帰宅困難者が多数出ると思います。首都圏内に勤める方々向けのハザードマップ等の作成を検討してほしいです。(県央・男性・75歳以上)
- 私の住んでいる地域は、近年の降水量から考えると、水没の可能性がある地域です。水害、地震、火災等が発生した場合、近くにまったく避難場所がありません。小、中、高校へは、高齢者が移動できません。是非、民間施設との連携によって、高齢者の避難場所を確保してほしいです。(横浜・女性・70～74歳)
- 津波についての対策をしっかりとってほしい。多摩川の対策をお願いします。(川崎・男性・50歳代)
- 水害用のハザードマップを見ましたが、分かりにくかったです。分かりやすいハザードマップを作っていただきたいです。(湘南・女性・40歳代)
- 地震等による災害時の被害軽減、景観、安心の観点から電柱をなくして地中化を進めてほしい。(県央・女性・50歳代)

(14) 自転車損害賠償責任保険等への加入

- 自転車保険と共に自転車にも交通ルールを守るための免許のようなものがほしい。電動自転車が、かなりのスピードで走るので危ない。(横浜・女性・60歳代)
- 交通ルールを学ぶ授業が必要だと思う。自動車免許までは必要ないが、ルールを知らずに自転車に乗る人がほとんどだと思う。家庭では、やっていないと思う。(川崎・女性・30歳代)
- 日頃、自転車通勤をしていますが、左側通行を守らない方が多く危ない、保険加入も必要だと思うが、マナーが悪い人を改善しなくてはならないと思う。(横須賀三浦・女性・50歳代)

(15) 県政一般

- 自然の変化に耐えられる環境ではない。税金を投資してインフラ整備に力を入れてほしい。(川崎・男性・50歳代)
- 神奈川県がやっていることが、いまいちピンとこない。市町村と国の間にあり中途半端である。親近感がない。県職員は何をやっていて、誰に対して誰のために仕事をしていますか。(湘南・女性・60歳代)
- 警官の夏服の改善について、知事から警察へ提言してほしい。5月になると、公務員・会社員はノーネクタイとなるが、警察のみネクタイを着用して仕事をしている。今年、現場の若い警官がワイシャツまで汗ビショリになって仕事をしていた。鉄板のベストも着用しているので暑くて大変だと言っていた。他の勤め人と同様5月から夏服にするよう警察へ申し入れてほしい。(相模原・男性・60歳代)
- 教育に関して、大学の無償化(日本人、外国人問わず)を希望。(相模原・女性・75歳以上)
- 台風19号の被害で武蔵小杉がニュースに取り上げられていたが、下沼部や中丸子も被害が大きいのに関わらず報道されなかった。被災地の支援を行政がしっかり行ってほしい。今後の災害対策もきちんと行ってほしい。(川崎・男性・30歳代)
- 今後は、大型店、集合住宅、レジャー施設が進出する場合は、必ず、法律によって、駐車場、屋上空間などを避難できる場所として設置する義務付けをしてほしい。企業は、地域によって支えられているのであるから。(横浜・女性・70～74歳)

- 県単位ではなく市区町村の取組の方が大事だと感じました。横浜市のホームページはチェックしますが、神奈川県ホームページは、見たことがありません。(横浜・女性・40歳代)
- 県として、少子化等に対する、取組が見えない。(横浜・男性・60歳代)
- 原発に頼らないシステムを行政が率先して取り組んでほしい。(横浜・女性・50歳代)
- 運転免許証の返納について、その後の交通手段等、不便さを補う制度が必要であると痛感している。是非、実施の方向を示してほしい。この調査では少し触れられていないが、重要である。(湘南・男性・75歳以上)
- いつになったら無認可の保育園への補助をしてくれるのですか。スポーツやカジノに割く財源を、なぜ、保育従事者に割けないのか。(横浜・女性・30歳代)
- 現在はI R = カジノ = ギャンブル依存症となってしまうが、間違った風評を止めるべき。県市のアピールに問題がある。外国の総合リゾート、例えばシンガポールのマリーナベイサンズは家族連れで楽しむリゾートでカジノはその中の一つにすぎない。(横浜・男性・60歳代)
- 県道57号沿いに住んでいる者です。住居の前がすぐ道路になっているのですが、県道のため大型車の通りが多く、スピードをかなり出している大型車が多いです。そのため、通るたびに家屋の揺れが激しく、精神に来る時があります。歩道を歩いていても恐怖を感じます。小さな子どもも大勢歩く歩道の横を猛スピードで大型車が通ります。道路にハンプを設置したり、信号の切り替え時間を調整するなどして、スピード対策をしていただけないでしょうか。(相模原・女性・30歳代)
- 公共施設へのアクセスや移動の方法について論じてほしい。(県央・男性・60歳代)

(16) その他(世論調査について等)

- 質問が偏っている。限定的。政治、福祉、など、多方面にニーズはあるはずです。(湘南・女性・50歳代)
- 現在のお仕事に関する設問で、職種の選択肢が少ない。職種の定義がよく分からない。(横浜・男性・20歳代)
- 質問数が多すぎる。テーマが多すぎてすべて熟考して答えるには無理があり、正確な回答を得ることができないのではないかと感じます。またボランティアという言葉が多く出ていますが、その定義があいまいのように思います。経済的に苦しい人が多い現代、有償でなければ行動に移すことは難しいのではないかと感じます。(湘南・女性・50歳代)
- 今回の調査は税金で行われていることと思いますが、この調査を実施する意味があるのか、納得できません。この調査結果で、行政の役割、仕事内容、県のこの先の方向性が変わるのでしょうか。このような調査そのものが税金の無駄遣いになっていないのか、と思います。(横浜・女性・50歳代)
- 独身なので終活に向けて、少しずつ準備しています。身内に迷惑をかけないように。(横浜・女性・60歳代)
- 質問によっては回答内容が多過ぎる場合がある。重複しているのではと思う内容もあった。(県央・男性・75歳以上)
- このアンケートは、家族の中で私にしか届いていません。県民全員に出して一人ひとりの意見を聞いた方が良いのではと思う。環境問題などは、一人ひとりが考えなければいけない。気候変動問題もみんなが考えるべき問題だと思う。(川崎・女性・50歳代)

- テーマではないのですが、折り目のある位置にちょうどホチキスの針があり、どうしたら良いか分かりませんでした。あと、用語の説明が大変勉強になりました。提出して手元に置いておけないのが残念です。(川崎・女性・50歳代)
- 「今後の県の施策を検討する基礎資料とする」とありますが、質問の内容が多岐にわたり過ぎていたと思いました。ピンポイントとまでは言わないが、一つのテーマを掘り下げた方が良いのではと思いました。できれば、年代別に同じアンケートで調査するなど。(横浜・女性・75歳以上)
- 集計が大変なのは分かりますが、質問に対する選択肢が大雑把で、少ないと思う。このアンケートがどう活かされるのかが見えてこない(横浜・女性・40歳代)
- 調査結果よりも、この調査をどう活かすのか、活かしたのかを知りたい。たとえば、問22はどう活かされるのか、聞いてどうするのか、想像がつかない。(湘南・女性・50歳代)
- 県民調査は、県民の利益に反映されなければならない。(横浜・男性・60歳代)
- テーマではありませんが、誰もがスマホ、パソコンを持っているわけではありません。情報を何でもかんでもホームページなどに載せるのをなくしてほしい(横須賀三浦・女性・40歳代)
- 改めて聞かれると、知っているつもりだった(よく理解していなかった)ということが多く感じました。県の情報を有効活用したいと思った。(湘南・女性・40歳代)
- なぜ、今、この質問なのか、目的、理由が分からない。(横浜・男性・50歳代)
- 質問文や選択肢が長いものは、若い世代は回答しないおそれがあると感じる。(横浜・男性・50歳代)
- 知らなかった単語や項目を知ることができる良い機会になった。(横浜・女性・20歳代)
- 未就学の子どもがいて、二人目を妊娠している状況で、フルタイムで勤めています。実家は遠方で頼りません。その状況でこの量のアンケートの回答は非常に負担を感じました。また、「回答一時保存確認」というところが最後までスクロールしないと出てこないことに不便を感じました。下までスクロールせずとも途中で保存できるようにしていただけると、私のような環境の方でも、この量のアンケートへの回答がしやすいと思います。(湘南・女性・30歳代)
- このようなアンケートを実施することは、県民の意識を県が把握する上で、非常に有意義だと思います。なお、回答画面を開いてから30分を超えると入力内容が消えるというのは、アンケートのボリュームからすると、特に慣れてない方には短すぎると思います。せめて60分は必要だと思います。(横浜・男性・30歳代)

